

気温の低い日が続き、雪が薄っすらと降り積もり、雪国にもなりました。また、強風も吹き荒れました。今の菜園は、冬野菜の季節とはいえ、最盛期と比べて様相は一変しています。 <「菜園歳時記 11月」を参照してください：豊かな緑です。>



ご覧のように、トマト、ナス等、比較的背が高くなる作物は夏が主力、今はありません。野菜たちは、霜や低温で緑色を失っています。中途半端な生育の野菜もあります。

野菜たちは、じっと寒さに耐えているように見えます。また、食べ尽くし寸前のネギの畝など、春の緑が待ち遠です。

■ 個々の野菜の現状を紹介いたします。





■ 白菜です。

外側の葉は、茶色に変色です。霜や寒風がいじめた結果です。スーパーの野菜棚で半裁された白菜、葉は緑、芯は白色、抜群のみずみずしさが感じられます。茶色の葉が除かれ、店頭に並びます。

外側の葉が犠牲となり商品価値を生み出しているのですね。

■ 大根です。

緑の色の大きく広がっていた葉、中心部だけを残し枯れています。秋口、緑色の葉はおひたしや煮込んで食べたりできました。

白色の根は地面から伸び上っています。このように伸び上っているダイコンは店頭のような良い姿をしています。



伸びあがり少なく、地中で育ったダイコンはえてして先割れしたり、時には白い肌のドキッとするような作品が現れます。

■ 紅色のダイコンです。

普通種と同じ畝にありました。種袋に混入していたのでしょう。その意外性に驚きです。





■ キャベツです。

まだ巻き初め。
強そうな外側の葉。
中心部分に芯ができ、
花球に成長して行きます。

食卓に並ぶ時を予測できません。暖かくなれば成長も早まるかな。

その頃は、青虫と人間との競争が始ま

ります。それは、まだしばらく後になりそうです。

■ ブロッコリーです。



中心部に赤子のげんこつ大の花球がようやく育ってきました。昨年の内に収穫した人もいるというのに、私の方はやっとこの大きさになりました。

種から育てました。苗を買っていただければ早期収穫ができたようです。

右下の方角が北方向です。北からの強い風に吹かれて南に押しやられています。

右側の杭を立てた方は、葉が反転していますが、支えられているようです。隣の杭なしは、茎が見え、風の影響をかなり受けた後が見えます。花球の結実に悪影響が出てしまうのか。収穫量の減少か。





■ 下仁田ネギとタマネギです。 下仁田ネギに丸みのある特徴的な葉が見られません。寒さで枯れたようです。タマネギは、苗を植えたような状態のまま、生育の跡がほとんど見えません。苗の緑色が目立たず、切り刻んだワラの畑のようです。

今はこの状態でも、時が経ち暖かくなると確実に成長します。自家消費には追い付かず、近隣や親戚にお裾分けできる程の収穫量になります。「たぬき」になってはなりません。



下仁田ネギとタマネギのアップ写真です。タマネギを近くで見ればこの通り、心配なさそうです。



■ ニンニクです

青森県産の球根を植えました。神奈川より自然条件の厳しい青森産です。それでも葉先が変色、枯れています。地中では確り結球しているのでしょうか。

恥ずかしながら、根元の雑草が緑色を貯め、どこことなく元気です。

我々にとっては雑草と一言で呼びますが、彼らにとっては、立派な生き様ですし、子孫を残す生育を始めているのです。

人は身勝手ですね。人間同士で、皮膚の色、言語、宗教、時には、政治体制の違いを許せず排斥しあい、戦争に至ります。

人の手で排除される、いわゆる雑草たちの逆襲はあるのかな・・・

■ ソラマメです。

夏に日除けだった「すだれ」を北風の防風を立てました。風を受け、倒れ込んでいた杭を立て直しました。

ソラマメは直立していなければなりません。風の影響でしょう、莖が途中で折れ、このような状態になってしまいました。すだれ方式では甘かったようです。ソラマメ命名にある実の付け方を紹介したのですが・・・、何とか立ち直らせたいと思います。

後日の歳時記を待ってください。





■ エンドウ豆です。

防寒の方式は、ワラ小屋風に仕立てました。初めは緑の葉を付けた竹を使いましたが、葉が枯れ落ちてしまい、ワラで囲うことにしました。生育し過ぎのようです。

今後の霜に堪えられれば良いのですが、

「過ぎたること」は考え物かもしれません。

本職の栽培です。

自宅から菜園への途中、農家さんの野菜畑があります。

キャベツは出荷できそうですし、長ネギの畝間は広く、十分な土寄せが可能です。

やはり冬景色は否めません。



白菜は霜枯れしています。